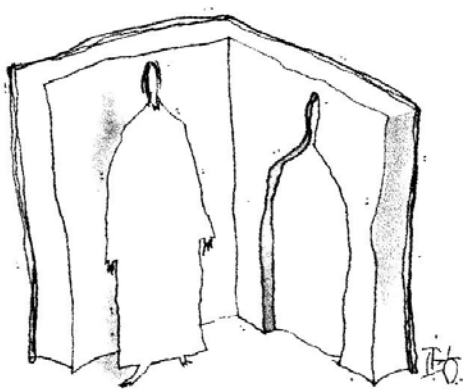
たい焼きと型

第 2 編第 11 章

新約と旧約の相違点



契約の実体はキリストですが、その実体が現れるまでそれを指し示すものとして、神はモーセを通していろいろな旧約の儀式を行わせ、その象徴を通して契約を施行されたのです。そのため、旧約の動物の血はイエス・キリストの血を指し示している表象なのです（ルカ 22:20）。つまり旧約の血は新約の血（たい焼き）を流し込むためのたい焼きの型のようなものだったと言えます。

子どもの頃、町でたい焼きを買って食べたことがありますか。たい焼きを焼く型の形によってそれはたい焼にもなりますし、大判焼きにも、人形焼にもなります。新約と旧約の両者はどちらも同じ契約を取り扱っている点では、それはお互いにたい焼きとたい焼きの関係にあると言えますが、その契約を処理（施行）する方法が違う点では、お互いはたい焼きとそれを焼く型の関係になります。旧約は新約というたい焼きを焼き上げるための型であり、新約は旧約という型で焼きあげられたたい焼きだと言うことができます。旧約と新約のこのような相違点は次の五つの内容から説明することができます。

第 1 節　旧約は新約の霊的祝福を現世的な祝福で表象したものである。

神が旧約を通して与えようとされた祝福も新約のそれと全く同じです。そしてその祝福を少しだけ味見させてくださったのが旧約なのです。神は旧約の民たちに地上的な祝福を通して教え、それらが示している天の霊的祝福を仰ぎ望むようにさせたのです。しかし、セルベトスは律法の約束を二つに分けてしまいます。つまり、その約束はキリスト者には霊的に実現するが、ユダヤ人たちには乳と蜜の流れるカナンの地が与えられたことで完全に成就されたのだと主張したのです。

しかし、旧約の族長アブラハムを見てください。彼は最初から永遠なる神を仰ぎ望んでいました（創世 15：1）。そしてその次にその偉大なる約束についての保証を表す表象として現世的な祝福を与えられたのです。ですから、族長たちが受けたカナンの地は彼らにとって最終目標でも究

極的な希望でもなかったのです。カナンの地は彼らにより強く天国の祝福を求めさせようとする訓練のために神が与えられた恵みの手段に過ぎなかったのです。そうでなければ族長たちはもちろんこと、カナンの地を目前にして死ななければならなかったモーセたちは失敗者に過ぎなくなってしまいます。

詩篇に出るダビデのたくさんの歌を読んでみましょう。彼のたくさんの告白はこの世のすべての祝福を超越してさらに偉大で、永遠な祝福を渇望しています（詩 73:26、84:2、16:5、142:5）。他の預言者たちの場合も同じです。彼らも現世的な祝福という表象を通して真剣になって天上の祝福を慕い求めているのです（イザヤ 35:10、52:1 以下、60:4 以下、62 章;詩 133:3 参照、イザヤ 65:17、66:22;ペトロ第二 3:10〜14;黙示 21：1〜3;出エジ 6:5〜8）。

また旧約の神はすべての過ちに対して容赦なく、人々に迅速に罰を下されました。しかしながら新約の神はそれよりも大変寛容で忍耐強く見えます。そこである人たちはマニ教徒のように新約と旧約の神は全く違うものだと考えるのです。

しかし旧約での現世的で地上的な祝福が未来の永遠なる祝福と恵みの表象として使用されたように、旧約に登場する真に厳しい身体的な刑罰は人々に未来の霊的死の深刻さを指し示す表象として用いられているのです。ガラテヤ書でパウロが説明したように、旧約の教会はまだ新約の祝福を受ける程度には十分に成熟していなかったためにこれらの表象という家庭教師にその面倒がまかされていたのです（ガラ 4:1,2）。

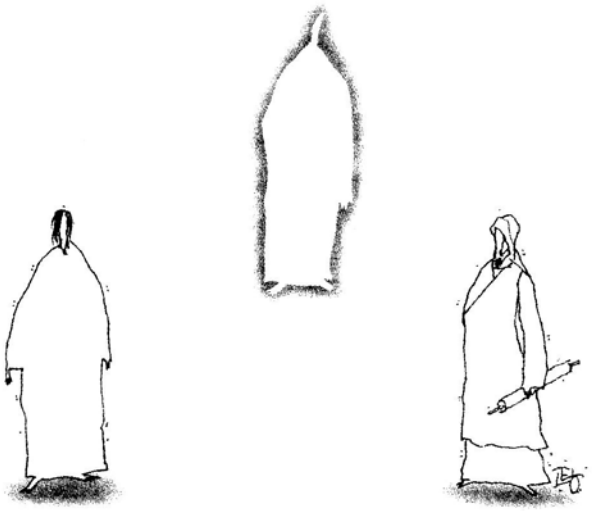
第 2 節　旧約は真理を外的な形と儀式を通して伝達し、キリストを予め示しているひな形です。

ヘブライの信徒への手紙にはっきりと説明されているように、天の実体は旧約では外的な形と影で表されていますが、新約になって始めてその真理の実体自身が現実のものとして人々の前に現されたのです。例をあげれば祭司職がそれです。天におらえる永遠なる大祭司キリストが旧約ではレビ人の祭司長として表されていましたが、新約では直接私たちにそのまことの姿を現してくださったのです（詩 110:4;ヘブライ 7:11,28）。

ですから、私たちにとってもうこれ以上レビ人の祭司たちも、毎日捧げられていた犠牲も必要がありません（ヘブル 7:23、24、27）。完全な天の実体自体が私たちの中に直接に現れてくださったために影にしかすぎなかった昔のものは当然、廃棄されるのです（ヘブライ 7:12、8:6〜13）。このように律法はやがて来る良きものの影であって、そのものの実体ではないと言えるのです（ヘブライ 10:1、9:10）。

ですから契約の実体はキリストですが、その実体が現れるまでそれを指し示すものとして、神はモーセを通していろいろな旧約の儀式を行わせ、その象徴を通して契約を施行されたのです。そのため、旧約の動物の血はイエス・キリストの血を指し示している表象なのです（ルカ 22:20）。つまり旧約の血は新約の血（たい焼き）を流し込むためのたい焼きの型のようなものだったと言えるのです。

信仰の先祖と呼ばれるアブラハムをはじめとするすべての旧約の信者たちはみな、その時代的制約を乗り越えることはできませんでした。彼らは私たちが見ているものを見ようとしましたが見ることができず、私たちが聞いているものを聞こうとしましたが聞くことができませんでした（ルカ 10:24;マタイ 13:16;ルカ 16:16;ペトロ第一 1:21）。彼らはたい焼きではなくたい焼きを流し込む型を持っていただけと言えるのです。



第 3 節　旧約は文字的で新約は霊的である。

使徒パウロは律法と新しい契約の関係を非常に簡単な表現でさまざまに比較しています。コリントの信徒への手紙二の 3 章を中心に私たちは旧約との相違点をつぎのような三つの内容で整理することができます。

第一に、旧約は文字的であり、新約は霊的であると言っています。旧約が文字的であという理由はそれがそのまま二枚の板に記録されていたためですし、新約が霊的であるという理由はそれが聖霊の働きによって私たちの心に刻まれものだからです。

第二に、旧約は殺すものであり、新約は生かすものと言っています。旧約はアダムのすべての子孫の罪を告発して彼らを罪に定めますが、新約は神の愛で人々を呪いから解放しますし、それだけではなくキリストの復活の命を与えることができます。

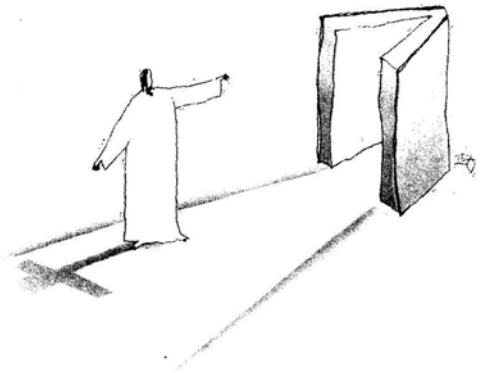
第三に、旧約は儀式に関連したものです。旧約は本体の影に過ぎないためにときが来ればなくなってしまいますが、新約は本体を表すものであるために永遠だと言えるのです（コリント二 3:10、11）。それでは律法の無力な儀式はいつなくなるのでしょうか。その儀式が表象しているキリストが来られたときにです。たい焼きの型はたい焼きを焼くために使われるものだからです。

しかし、律法が文字的であるとしても旧約の民の中に神に真実に立ち返った者が一人もいなかったという意味ではありません。旧約の民だけ見ても、たくさんの人々が真の救いを受けました。しかし、新約のそれと比べて見るなら、それはほとんどいないと言っていいほどにその数は少ないのです。それに比べて福音の宣教を通して聖霊によって再生した人々、主がすべての民族の間で呼び集めて教会の交わりに入れられた人々の数は驚くほど多いということです。ですからここで語る新約と旧約との相違点は本質的なものではなく、神が恵みをどの程度施されるかという量的な差であるといえます。

第 4 節　旧約は奴隷の契約であり、新約は自由の契約である。

旧約は文字的で殺すものであり、人々の心に恐怖を呼び起こします。それはこのようにです。まず律法は善を行って、悪を行うなと命じ、戒めを守るものには報いを約束し、守らない者たち

には罰を与えると警告を発します。しかし、律法は生まれつきの私たちの心の内にある誤謬と腐敗を取り除くことができません。ですから、人は罪の下にい続けるほかありませんし、従って律法の定罪と危険から解き放たれることができません。自然に律法は人の良心を奴隷の鎖につなぎとめるしかないと言うのです



ですから聖書は旧約を「奴隷の契約」と呼んでいます。しかし、霊的で人を生かす契約である新約は私たちの良心を解放し、自由にさせるのです（ガラテヤ 4:22～31）。そして人々の心に信仰と赦しの確信を持つことができるようにさせます。そのために新約を「自由の契約」と呼ぶのです（ローマ 8:15）。ちょうどアブラハムの相続者が彼の家系の中でハガルの子イスマエルではなく、約束の婦人サラの体から出たイサクになったように、私たちはシナイ山の律法ではなく、天のエルサレムから来る福音によって真の自由を相続することができるようになるのです。

今まで私たちは律法を旧約として、福音を新約と言う名前で表現してきました（ルカ 16:16）。しかしながら、この呼び方には若干の説明が必要です。なぜならば新しい契約は事実、律法が発布される前の創世記の出来事のときから存在していたからです。アウグスチヌスの言葉のように、旧約時代の人々の中でも真の聖徒たちは私たちと同じようにその約束を仰ぎ望み、全く同じ信仰によって再生し、全く同じ霊的で永遠の恩恵を受けていたのです。

ですから創世記の出来事のときからすべての神の子どもたちはみな同じ新しい契約に属していたのです。それでアウグスチヌスは律法以前に発表された約束を旧約という名前の中に入れてはならないと語りました。旧い契約の下で生きた聖徒たちは現在のたい焼きの型に満足しないで、常に未来に与えられるたい焼きを求めて生きていたのです。彼らは神殿で捧げられる動物の血で満足することなく、やがて来られる「神の子羊」イエスを仰ぎ望んでいたのです。

第 5 節　旧約は一つの民族を、新約はすべての民族を対象にしている。

この最後の五つ目の相違点こそ、新約が旧約よりも優れていることをはっきりと表しています。旧約時代には神はまるでイスラエル一国のほかは知らない方のように、イスラエルだけにすべての約束と恵みを与えられました（申命 32:8,9、10:14,15、使徒 14:16）。しかし、時が満ちて（ガラテヤ 4:4）神はキリストによってイスラエルと言う境界線をなくし、すべての国、すべての民族の神となられたのです（エフェソ 2;13～17；ガラテヤ 3:28；コロサイ 3:11；詩 2:8、72:8；ゼカリヤ 9:10）。

その偉大な王国の実現はキリストの伝道の初期にさえしばらく延期されたかのように見えましたが（マタイ 15:24、10:5；フィリピ 2:9,10）、すぐにすべての民族に広げられました（参照、使徒 1:8,10:35,45,15:13～18；創世 12:3；ガラテヤ 3:14；マタイ 28:18～20）。もちろん、旧約時代中にも異邦人を神が召し出された証拠がところどころにありますが、それは新約時代のように公なものでも、豊かなものでもありませんでした（コロサイ 1:26；エフェソ 3:9；ペトロ一 1:12）。

まとめの言葉

　ある人々は、「神はなぜそのように気まぐれなのか」と言います。しかし、農夫が季節に従って農作業を変え、父母が子どもたちの年齢に従って教育法を変え、医師が患者の年齢と症状に従って治療法を変えたとしても誰もそれを非難することはできないでしょう。昼と夜、夏と冬の変化を造られた神は時代や人間の力に従って最も適切な救いの外的な形式と方法を使用されたのです。そして神は旧約時代の民たちにはたい焼きの型を、新約時代の私たちには実際のたい焼きを与えてくださったのです。